

令和元年度 あだちっ子歯科健診※実施結果報告書

あだちっ子歯科健診は、年少児（4歳）～年長児（6歳）が在籍する区内すべての教育・保育施設で、「統一基準の歯科健診」「ていねいな受診勧奨」「結果の集計・分析・フィードバック」をセットに実施している。本格実施5年目を終え、すべての年齢で「むし歯がある子どもの割合が減少」「未処置のむし歯を5本以上持つ子どもの割合が減少」等、成果が明らかになっている。また、令和元年度は、乳幼児期から学齢期について、同一の子どもの健診データをつなげて分析することが可能となった。令和元年度の実施結果について、以下のとおり報告する。

※ あだちっ子歯科健診の概要はP11へ

令和元年度 あだちっ子歯科健診実施結果報告書・目次		
1	令和元年度施設参加率と受診率	P 1
2	令和元年度あだちっ子歯科健診結果【主な結果】	P 2
	(1) 「乳歯にむし歯がある子ども」の割合が減少	
	(2) 「未処置のむし歯がある子ども」の割合が減少	
	(3) 3歳から4か年同一施設に通園している子どものむし歯有病率【突合分析】	
3	小学1年生のむし歯がある子どもの割合(平成27年度～令和元年度)	P 5
4	令和2年度の主な取り組み	P 5
5	糖尿病対策アクションプランー歯科口腔保健対策編ー【中間見直しによる改定版】進捗状況	P 6
6	資料編	P 7

1 令和元年度施設参加率と受診率

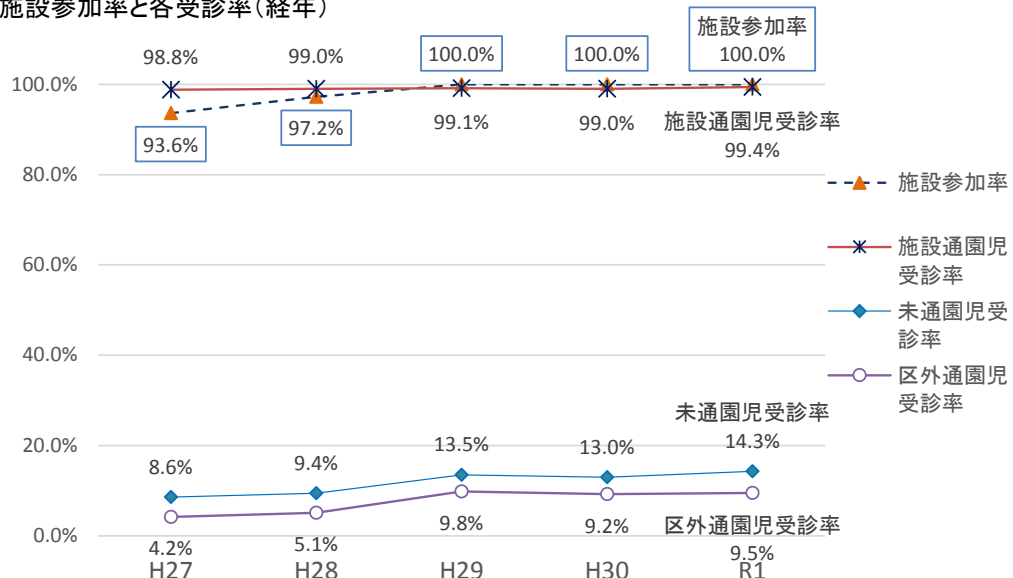
(1) 教育・保育施設の参加状況

区内の教育・保育施設、計202施設(前年度比+14施設)で実施し、平成29年度から3年連続で参加率100%となっている(図1)。

(2) 歯科健診受診率

施設通園児99.4%(前年度比0.4ポイント増)、未通園児14.3%(前年度比1.3ポイント増)、区外通園児9.5%(前年度比0.3ポイント増)、全体では93.4%(前年度比1.1ポイント増)の受診率であった。未通園児は、複数回勧奨を実施したことにより、受診率が向上している。

(図1) 施設参加率と各受診率(経年)

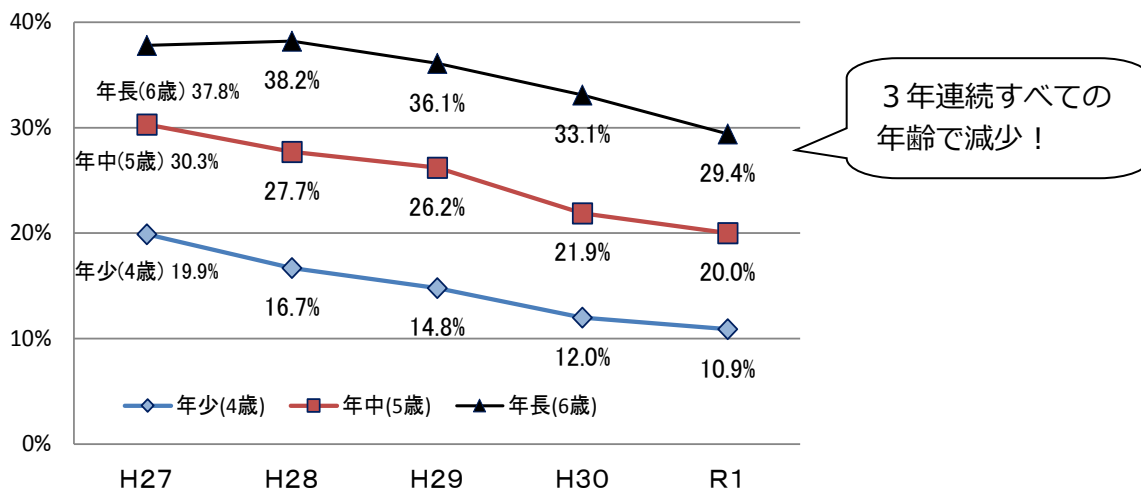


2 令和元年度あだちっ子歯科健診結果【主な結果】

(1) 乳歯にむし歯がある子どもの割合が減少した

乳歯にむし歯がある子どもの割合は、3年連続、年少児(4歳)～年長児(6歳)すべての年齢で減少した。あだちっ子歯科健診を開始した27年度からみると、年少児(4歳)が9.0ポイント、年中児(5歳)10.3ポイント、年長児(6歳)8.4ポイントと大幅に減少している。

(図2) 乳歯にむし歯がある子どもの割合(むし歯がある子どもの割合は、処置歯も含む)



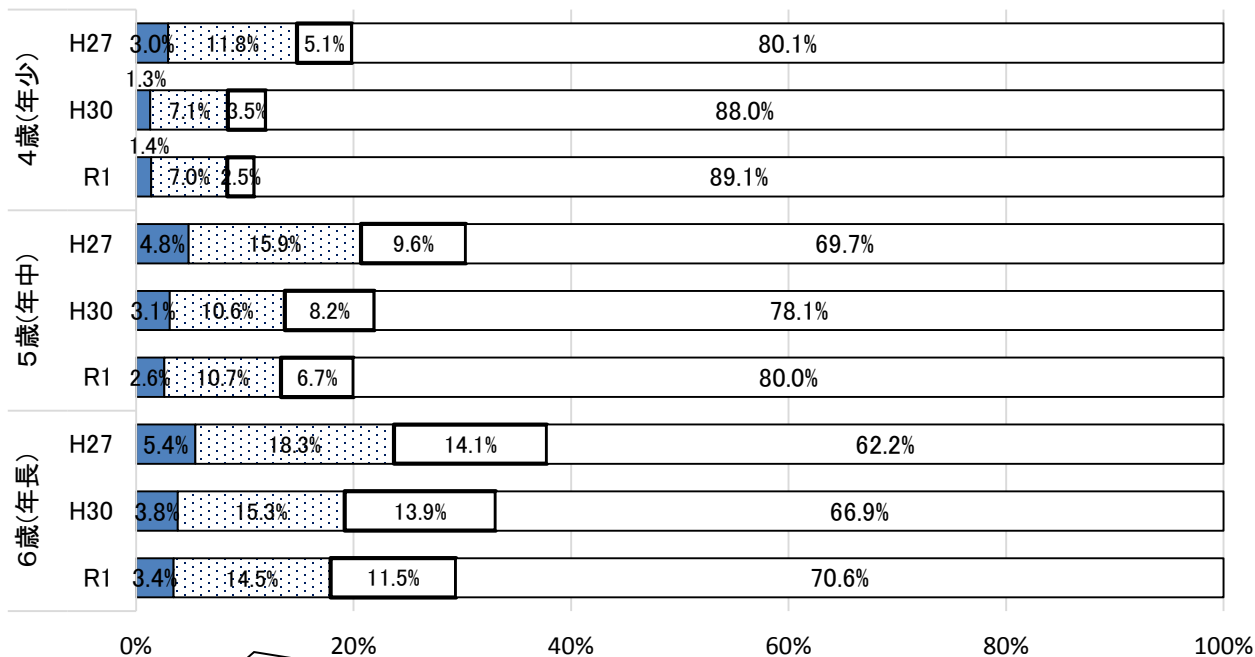
(2) 未処置のむし歯がある子どもの割合は減少傾向

① 年齢別・経年比較(H27、H30、R1年度)

平成27年度からみると全年齢で大きく減少したが、前年度比では、年少児(4歳)は横ばい、年中児(5歳)、年長児(6歳)は微減となっており、年長児で5本以上未処置のむし歯を有している子どもは3.4%であった。

(図3) 未処置のむし歯がある子どもの割合(H27・30・R1年度比)

■5本以上 □1~4本 □0本(すべて処置済み) □むし歯なし

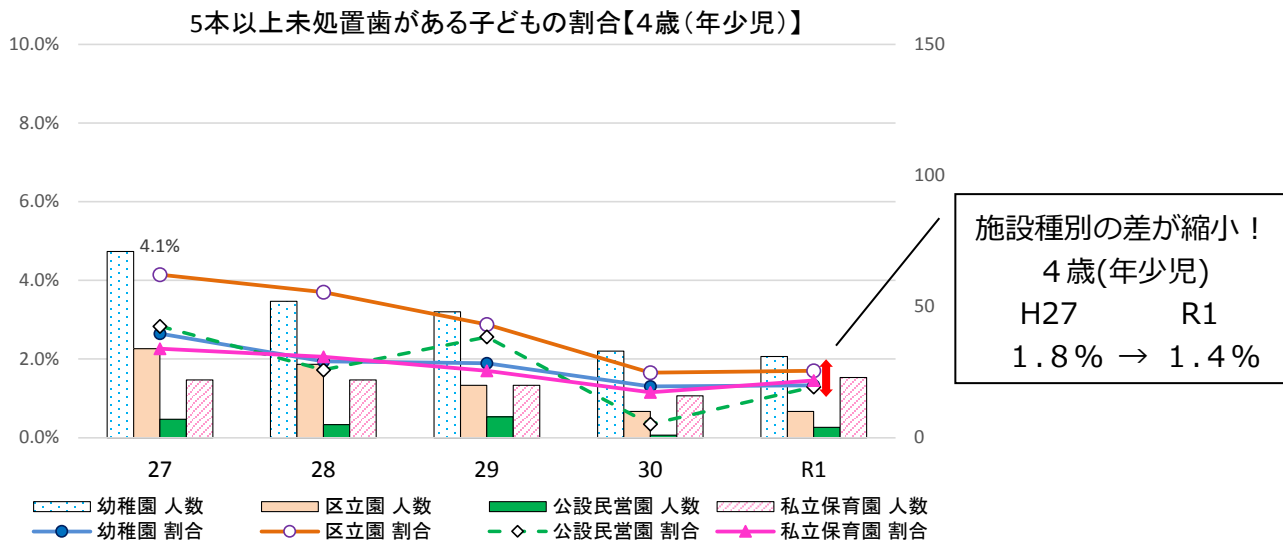


前年比では、未処置のむし歯のある子の割合は横ばい、または微減にとどまっている

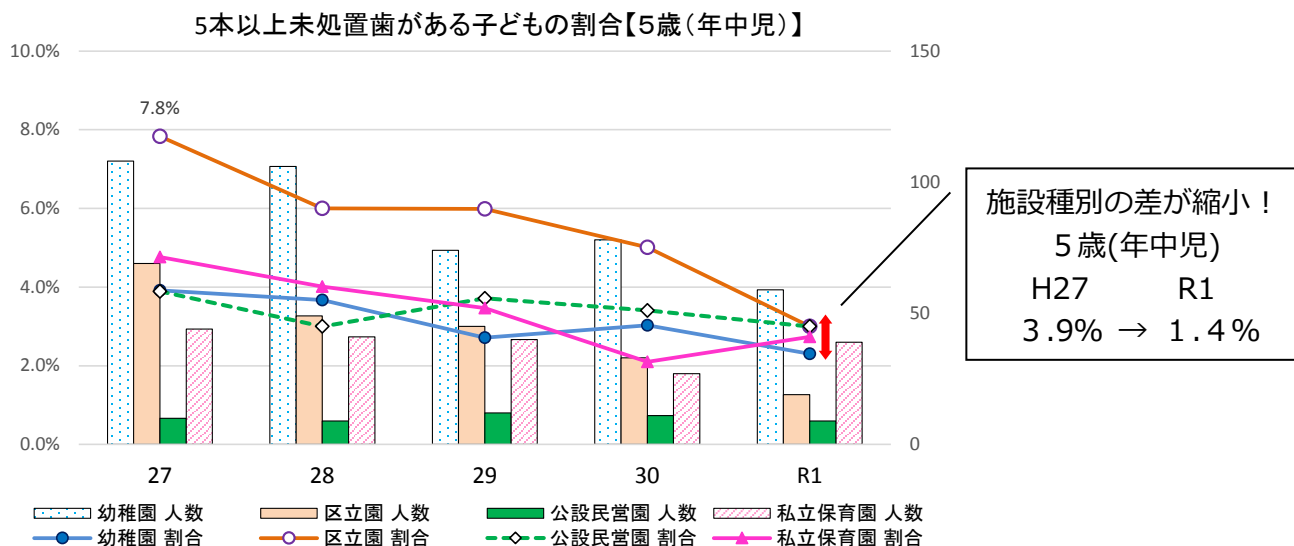
② 施設種別・5本以上未処置のむし歯を保有する子どもの割合

5本以上未処置のむし歯がある子どもの割合は、すべての年齢で減少し、施設間の差が縮小しているが、前年度との比較では、区立園を除き、横ばいまたは微増となっている。

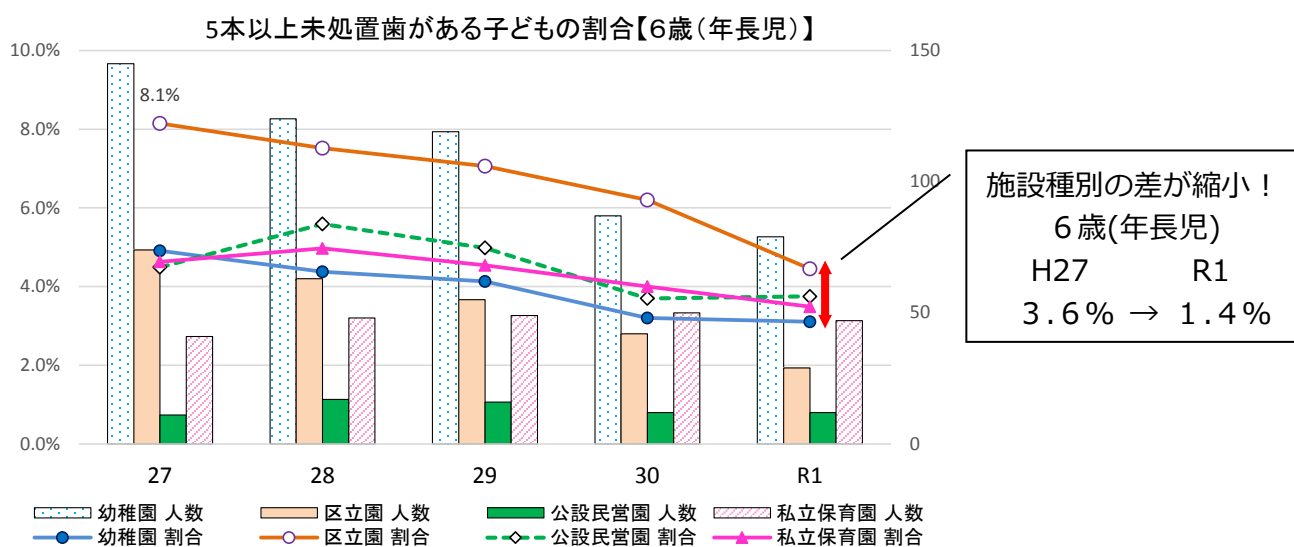
ア 年少児（図4）



イ 年中児（図5）



ウ 年長児（図6）



(3) 3歳から4か年同一施設に通園している子どものむし歯有病率【同一の子どもの健診結果をつなげて分析】

① 平成30年度末および令和元年度末年長児(6歳児)における通園施設別むし歯有病率

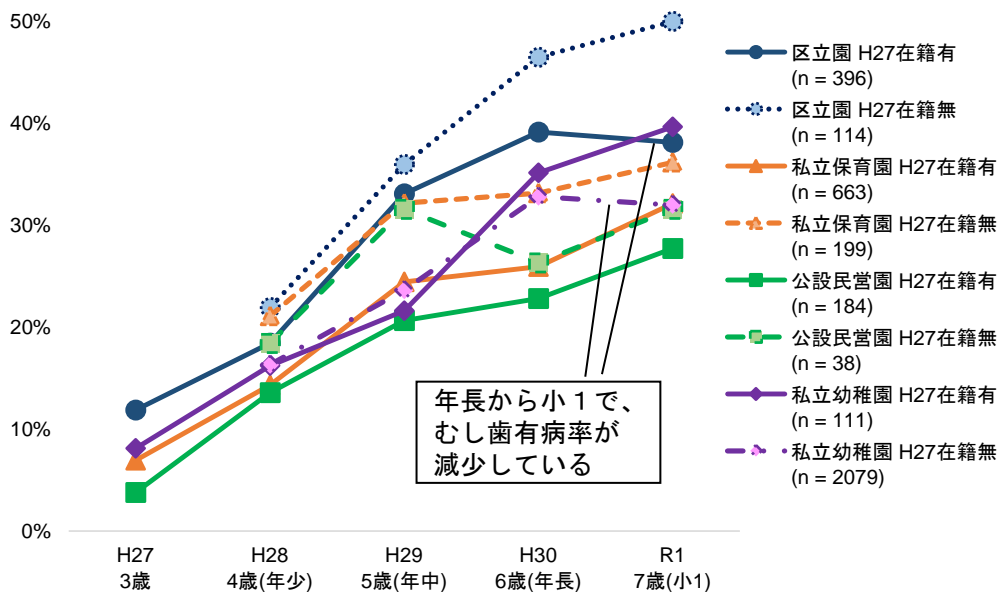
「平成30年度末年長児のあだちっ子歯科健診」と「令和元年度の定期学校歯科健康診断(小1)」とのデータについて、同一の子どもの結果をつなげて分析したところ、小1でむし歯有病率が低下しているグループがあった。これは、前歯のむし歯が永久歯への生え変わりで抜けたことに加え、6歳以降、新たなむし歯をつくっていない子どもが増加していることによるものと考えられる(図7)。

令和元年度年長児のむし歯有病率は、前年度と比べて、施設種別または通園状況による差は縮小傾向にあるが、依然として4歳(年少)以降に区立園に在籍した子どもが高い状況にある(図8)。

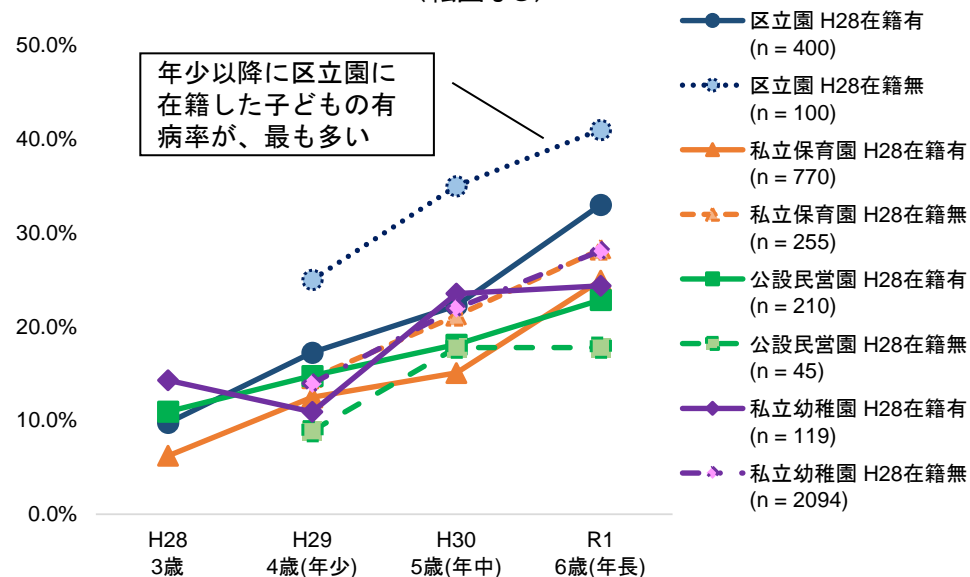
(図7) H30年度末年長児(6歳児)における通園施設別むし歯有病率とR1定期学校歯科健康診断結果との突合分析

(図8) 令和元年度末年長児(6歳児)における通園施設別むし歯有病率

令和元年度7歳(小1)の乳歯むし歯有病率変化(転園なし)



令和元年度末6歳児の乳歯むし歯有病率変化(転園なし)



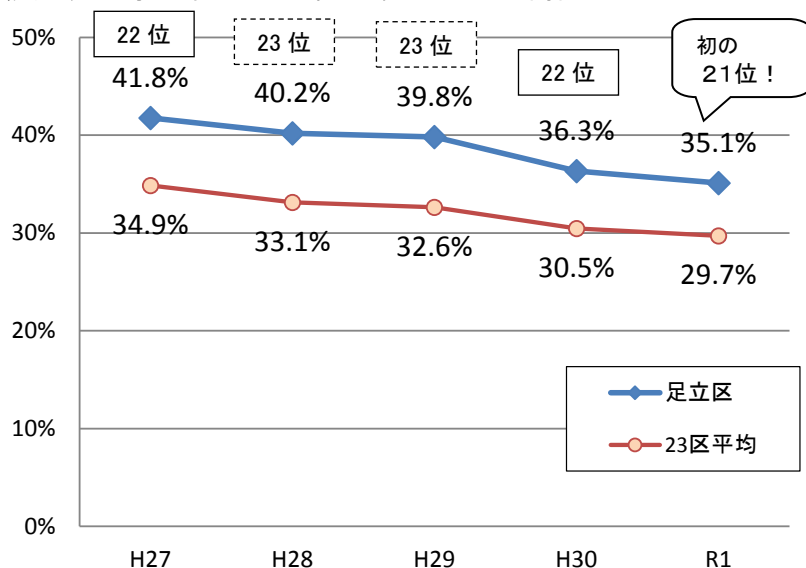
※1 むし歯がある子どもの割合は、処置歯も含む。
 ※2 平成27～30年度の受診者のうち平成30年度年長児(6歳)の子どものデータを突合して分析した。

※1 むし歯がある子どもの割合は、処置歯も含む。
 ※2 平成28～令和元年度の受診者のうち令和元年度に年長児(6歳)となる子どものデータを突合して分析した。

3 小学1年生のむし歯がある子どもの割合（平成27年度～令和元年度）

小学1年生のむし歯がある子どもの割合は年々減少し、令和元年度、初めて、特別区で21位となった。就学前のむし歯の状況の改善が起因していると考えられる。

（図9）小学1年生のむし歯がある子どもの割合



※1 むし歯がある子どもの割合は、処置歯も含む。

4 令和2年度の主な取り組み【子ども家庭部、衛生部が連携して取り組む】

（1） 歯科健診データを活用した「子どもの歯の健康づくり」の推進

① 未処置のむし歯が多い子どもの後追い調査の実施

むし歯が5本以上で、すべてが未処置である子どもについて、各施設へ聞き取りし、必要に応じて子ども家庭部・衛生部の歯科衛生士等が園訪問を行い、状況確認及び個別指導等を行う。

② むし歯の伸び率が高い施設の支援

令和元年度年長児の分析結果を基に、優先順位の高い施設を抽出し、「仕上げみがきや歯によいおやつ習慣」等、むし歯予防の取り組みを支援する。

③ 仕上げみがき動画・子どもの歯みがきマニュアル(改訂版)の活用

子ども・保護者の「歯みがきスキルの向上」を目指し、「仕上げみがき動画」ならびに「関係機関向け歯みがきマニュアル(改訂版)」等の活用を、各施設へ積極的に働きかける。

（2） 未通園児の健診受診の推進

前年度の未受診者には、早期に複数回受診勧奨のハガキを送付し、受診率向上をはかる。また、障がい福祉等の区サービス利用者については、健診開始前から関係機関と連携をとり、関係機関からの働きかけも積極的にすすめる。引き続き、未受診者についてはケース分析を行い、健診実施後も各所管や関係機関と連携をしてフォローできる仕組みの検討を行う。

（3） 定期学校歯科健康診断データとの分析を実施

定期学校歯科健康診断のデータ化に合わせて、乳歯と永久歯のむし歯の関係について分析・検討を行う。

5 「糖尿病対策アクションプラン－歯科口腔保健対策編－【中間見直しによる改定版】」進捗状況

あだちっ子歯科健診に関連する実績値及び目標値は、下記のとおりである。5本以上未処置のむし歯がある子どもの割合(年長児)は0.4ポイント減少した。

(表1)

		28年度実績 中間実績値	30年度実績 (2018年度)	令和元年度実績 (2019年度)	R4年度 目標値
① あだちっ子 歯科健診(4 ～6歳児)の 受診率を向上 させる	私立幼稚園・認定こども園	98.7%	98.6%	99.4%	100%
	区立保育園・認定こども園	99.1%	99.5%	98.9%	100%
	公設民営園	99.0%	99.2%	99.3%	100%
	私立保育園	99.7%	99.5%	99.7%	100%
	認証保育所	98.5%	98.7%	99.3%	100%
	未通園児等	7.7%	11.6%	12.5%	15%
② 受診(治療) 報告書提出率	私立幼稚園・認定こども園	49%	57.4%	68.9%	60%
	区立保育園・認定こども園	62%	76.9%	68.4%	75%
	公設民営園	61%	73.3%	78.7%	75%
	私立保育園	68%	73.2%	78.6%	75%
	認証保育所	70%	61.8%	64.7%	75%
	未通園児等	50%	37.7%	56.3%	60%
③ むし歯がない子ども の割合	年長児	61.8%	66.9%	70.6%	70%
	小学1年生	59.8%	63.7%	64.9%	65%
④ <u>5本以上未処置のむし歯</u> がある子 どもの割合(年長児)		5.1%	3.8%	3.4%	3%

－資料編－

1 令和元年度あだちっ子歯科健診の実施結果

(1) 参加状況および実施時期

すべての教育・保育施設で5月～7月に実施した。区内の教育・保育施設に通っていない子ども（以下、「未通園児等」という）へは、個別に通知を発送している。

(表2)

	施設数	参加数	参加率 (H28年度)	実施時期	備考
私立幼稚園 私立認定こども園	51	51	100% (100%)	令和元年5月～7月	
区立保育園 区立認定こども園	30	30	100% (100%)		
公設民営園	16	16	100% (100%)		
私立保育園	92	92	100% (100%)		
認証保育所	13	13	100% (100%)		年少児以上が在籍する施設
未通園児等	R1.9.1を基準日とし対象者を抽出			令和元年9月～11月	個別通知による歯科健診の勧奨

(2) 受診状況【各施設からの集計報告による実績値】

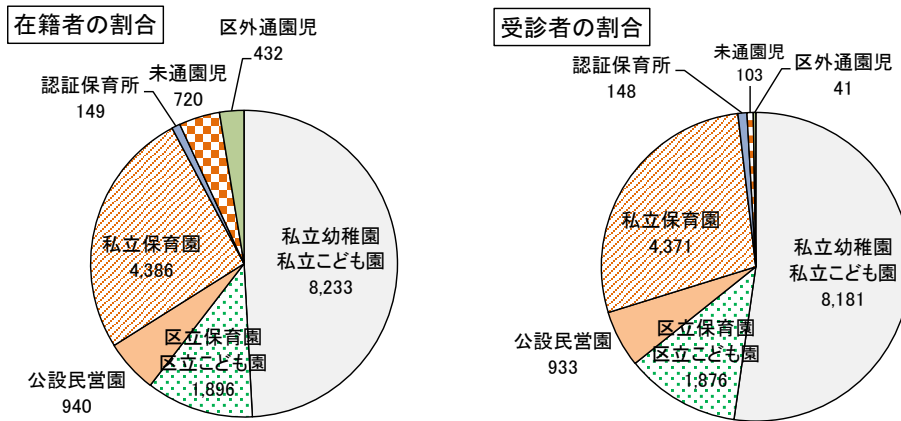
(表3)

※在籍者は、区外在住者を含む。未通園児等の在籍者は、対象者数を記載。

		年少児(4歳)		年中児(5歳)		年長児(6歳)		合計(人数)		
		在籍者	受診者	在籍者	受診者	在籍者	受診者	在籍者 (H30年度)	受診者 (H30年度)	受診率 (H30年度)
私立幼稚園 私立認定こども園		2,591	2,572	2,815	2,799	2,827	2,810	8,233 (8,680)	8,181 (8,561)	99.4% (98.6%)
区立保育園 区立認定こども園		594	590	641	633	661	653	1,896 (1,958)	1,876 (1,948)	98.9% (99.5%)
公設民営保育園		314	312	305	301	321	320	940 (954)	933 (946)	99.3% (99.2%)
私立保育園		1,584	1,580	1,442	1,435	1,360	1,356	4,386 (3,998)	4,371 (3,979)	99.7% (99.5%)
認証保育所		58	58	51	51	40	39	149 (153)	148 (151)	99.3% (98.7%)
未通園児等	未通園児	327	56	177	19	216	28	720 (816)	103 (106)	14.3% (13.0%)
	区外通園児	116	13	160	15	156	13	432 (480)	41 (44)	9.5% (9.2%)
合計 (H30年度)		5,584 (5,674)	5,181 (5,191)	5,591 (5,616)	5,253 (5,213)	5,581 (5,749)	5,219 (5,331)	16,756 (17,039)	15,653 (15,735)	
受診率 (H30年度)		92.8% (91.5%)		94.0% (92.8%)		93.5% (92.7%)		93.4% (92.3%)		

受診者の割合は、私立幼稚園・私立認定こども園が52.3%と最も多かった。未通園児は、在籍率が4.3%にもかかわらず、受診率は0.7%に留まっている。

(図10) 在籍者、受診者の割合



(3) 未通園児等の未受診理由

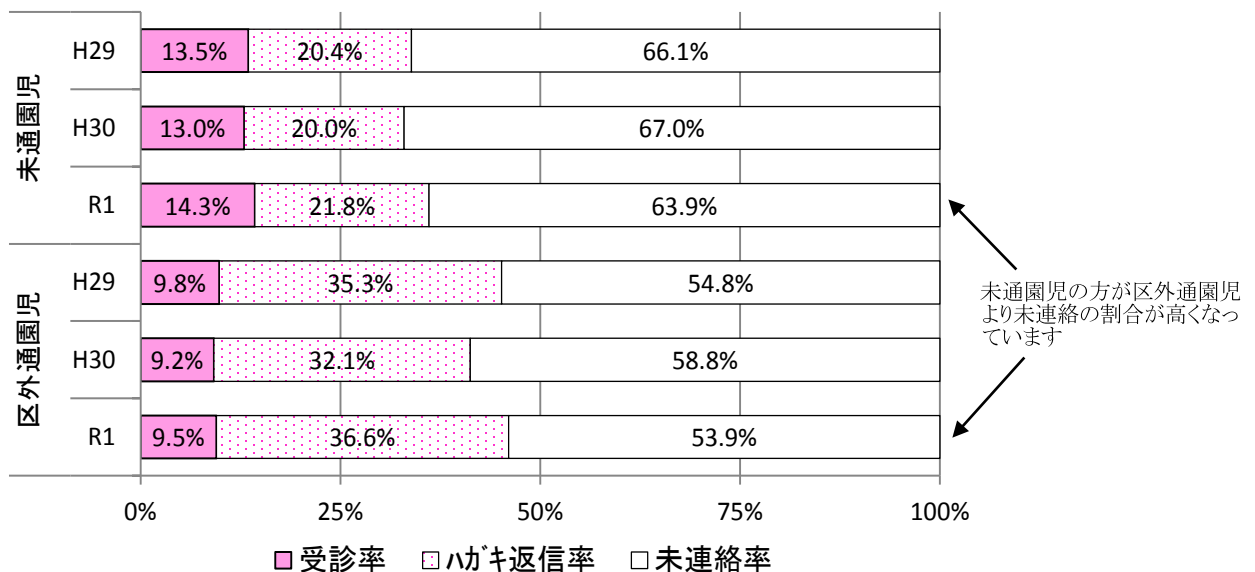
歯科健診の個別通知の際、健診を希望しない理由を調査するためのハガキを同封したところ、未通園児の21.8%、区外通園児の36.6%から返信があった。

(表4)

	対象者 (H30年度)	歯科健診受診		未受診			
		受診者 (H30年度)	受診率 (H30年度)	希望しないハガキ		未連絡	
				返信数 (H30年度)	返信率 (H30年度)	人数 (H30年度)	割合 (H30年度)
未通園児	720 (816)	103 (106)	14.3% (13.0%)	157 (163)	21.8% (20.0%)	460 (547)	63.9% (67.0%)
区外通園児	432 (480)	41 (44)	9.5% (9.2%)	158 (154)	36.6% (32.1%)	233 (282)	53.9% (58.8%)
合計	1,152 (1,296)	144 (150)	12.5% (11.6%)	315 (317)	27.3% (24.5%)	693 (829)	60.2% (64.0%)

希望しない理由（複数回答可）は、「歯科医院に通院している」「歯科医院で定期的にチェックしている」「通っている施設で受けた」が多くなっている。

(図11) 歯科健診を希望しない割合（ハガキ返信率）



(4) 「足立区保健衛生システム」登録数

受診者のうち、区内在住児の結果を「足立区保健衛生システム」に登録し、分析を行った。システム登録者数は14,865名で、全受診者の95.0%であった。

(表5) ※受診者には区外在住児もいるため、受診者数と登録者数は一致していない。

	年少児(4歳)		年中児(5歳)		年長児(6歳)		システム登録合計(人)	
	受診者 (H30年度)	登録者 (H30年度)	受診者 (H30年度)	登録者 (H30年度)	受診者 (H30年度)	登録者 (H30年度)	受診者 (H30年度)	登録者 (H30年度)
人数	5,181 (5,191)	4,922 (4,945)	5,253 (5,213)	5,004 (4,926)	5,219 (5,331)	4,939 (5,057)	15,653 (15,735)	14,865 (14,928)
登録率	95.0% (95.3%)		95.3% (94.5%)		94.6% (94.9%)		95.0% (94.9%)	

(5) 歯科健診分析結果（足立区保健衛生システムに登録した子どもの歯科健診結果）

① 乳歯にむし歯がある子どもの割合（年齢別）

令和元年度の結果、乳歯にむし歯がある子どもの割合は、全年齢で減少した。

(表6) むし歯がある子どもの割合

	年少児(4歳)			年中児(5歳)			年長児(6歳)		
	受診者	むし歯有	有病率	受診者	むし歯有	有病率	受診者	むし歯有	有病率
平成27年度	4,829	959	19.9%	4,856	1,473	30.3%	5,014	1,894	37.8%
平成28年度	4,925	823	16.7%	5,086	1,408	27.7%	4,983	1,903	38.2%
平成29年度	4,868	719	14.8%	5,058	1,324	26.2%	5,134	1,854	36.1%
平成30年度	4,945	591	12.0%	4,926	1,080	21.9%	5,057	1,672	33.1%
令和元年度	4,922	536	10.9%	5,004	1,001	20.0%	4,939	1,453	29.4%

② 乳歯にむし歯がある子どもの割合（施設種類別）

「乳歯にむし歯がある子どもの割合」の施設間の差は、年少児が3.2ポイント、年長児が12.0ポイントと、年齢が上がるごとに拡大している。

※認証保育所・未通園児等はサンプル数が少ないため参考値とする（合計は含む）。

(表7)

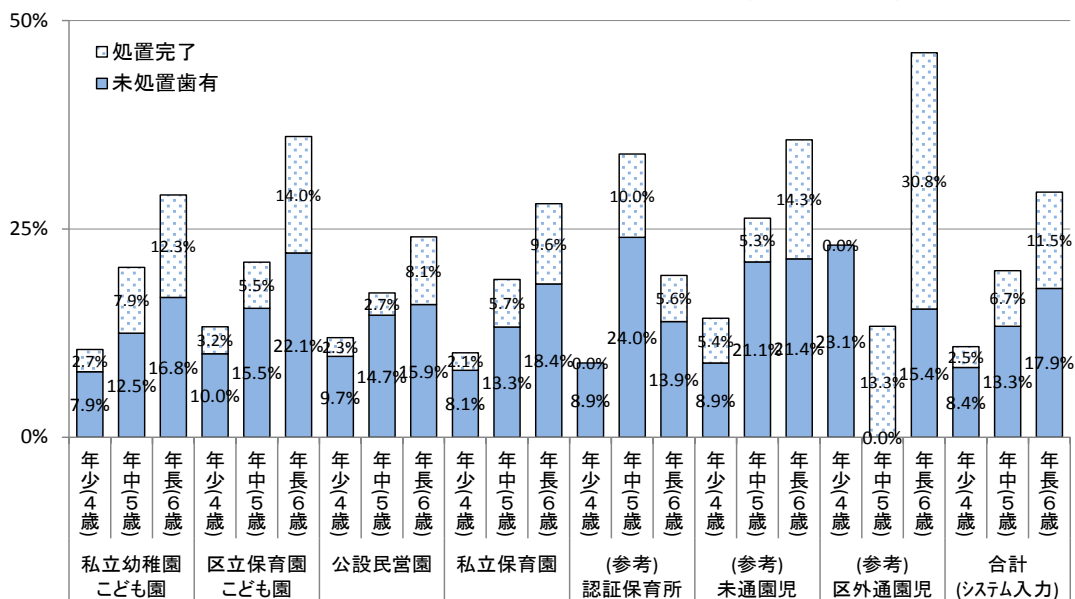
	年少児(4歳)			年中児(5歳)			年長児(6歳)		
	受診者	むし歯有	有病率 (H30年度)	受診者	むし歯有	有病率 (H30年度)	受診者	むし歯有	有病率 (H30年度)
私立幼稚園 私立認定こども園	2,323	245	10.5% (13.1%)	2,561	522	20.4% (23.0%)	2,543	740	29.1% (33.7%)
区立保育園 区立認定こども園	588	78	13.3% (11.9%)	633	133	21.0% (25.2%)	651	235	36.1% (42.2%)
公設民営保育園	309	37	12.0% (12.8%)	300	52	17.3% (20.7%)	320	77	24.1% (26.4%)
私立保育園	1,577	160	10.1% (9.0%)	1,426	270	18.9% (18.3%)	1,348	378	28.0% (28.9%)
(参考)認証保育所	56	5	8.9% (21.8%)	50	17	34.0% (19.0%)	36	7	19.4% (21.3%)
(参考)未通園児	56	8	14.3% (19.7%)	19	5	26.3% (23.1%)	28	10	35.7% (26.3%)
(参考)区外通園児	13	3	23.1% (6.7%)	15	2	13.3% (36.4%)	13	6	46.2% (42.9%)
合計 (H30年度)	4,922 (4,945)	536 (591)	10.9% (12.0%)	5,004 (4,926)	1,001 (1,080)	20.0% (21.9%)	4,939 (5,057)	1,453 (1,672)	29.4% (33.1%)

③ 未処置のむし歯(乳歯)がある子どもの割合（年齢別・施設種類別）

年齢が上がるにつれて、処置完了の子どもの割合が増加しているが、年長児でも半数に達していないのが実態である。

※認証保育所・未通園児等はサンプル数が少ないため参考値とする（合計は含む）。

(図1 2) 施設種類別 むし歯がある子どもの割合（未処置歯有、処置完了者の割合）

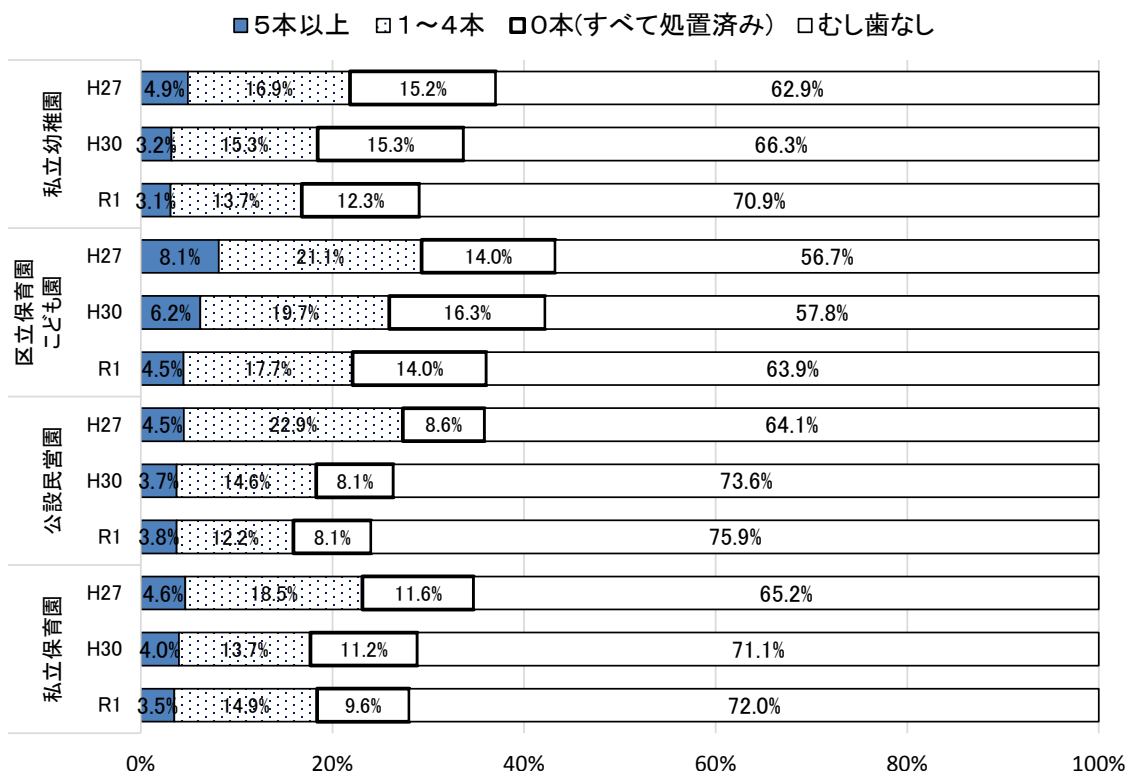


【参考】 30年度(合計)	処置完了率	年少	3.5%	年中	8.2%	年長	13.9%
	未処置有率	年少	8.5%	年中	13.7%	年長	19.2%

④ 施設種別・未処置のむし歯を5本以上もつ年長児の割合

年長児で、未処置のむし歯を5本以上もつ割合は、すべての施設種別で27年度より減少しているが、前年度比では、区立園を除き、横ばいまたは微増となっている。

(図1 3) 施設種別・乳歯に5本以上未処置のむし歯がある子どもの割合(H27年度・30年度比)



⑤ 受診報告書の提出状況【施設からの集計報告による実績値】

歯科健診後に、治療・相談が必要な子ども（※1）に対し、保護者が歯科医療機関を受診した結果が、教育・保育施設より受診報告書として提出されている（※2）。

なお、未通園児等の受診報告は、保護者から区に直接ハガキで報告する方法を採用している（※3）。

令和元年度における受診報告書の提出率の平均は71.8%で、30年度と比べて7.1ポイント増加した。

※1 未処置のむし歯(C)及びむし歯になりそうな歯(CO)がある、または歯肉、歯垢、かみ合わせで治療・相談が必要な子ども。

※2 概ね歯科健診から2か月程度経過した時点での報告率。

※3 未通園児等は、サンプル数が少ないため、参考値とする(合計には含む)。

(表8)

	年少児（4歳）		年中児（5歳）		年長児（6歳）		合計(人数)			
	発行数	報告数	発行数	報告数	発行数	報告数	発行数 (H30年度)	報告数 (H30年度)	報告率 (H30年度)	
私立幼稚園 私立認定こども園	499	330	701	492	830	577	2,030 (2,203)	1,399 (1,264)	68.9% (57.4%)	
区立保育園 区立認定こども園	102	65	162	113	214	149	478 (546)	327 (420)	68.4% (76.9%)	
公設民営保育園	71	55	89	78	93	66	253 (273)	199 (200)	78.7% (73.3%)	
私立保育園	279	226	321	251	408	315	1,008 (1,039)	792 (761)	78.6% (73.2%)	
認証保育所	9	7	15	11	10	4	34 (34)	22 (21)	64.7% (61.8%)	
未通園児等	未通園児	13	7	8	6	12	6	33 (47)	19 (17)	57.6% (36.2%)
	区外通園児	7	4	1	0	7	4	15 (14)	8 (6)	53.3% (42.9%)
合計 (H30年度)	980 (1,079)	694 (709)	1,297 (1,344)	951 (859)	1,574 (1,733)	1,121 (1,121)	3,851 (4,156)	2,766 (2,689)		
報告率 (H30年度)	70.8% (65.7%)		73.3% (63.9%)		71.2% (64.7%)		71.8% (64.7%)			

2 あだちっ子歯科健診の概要

(1) 目的

「足立区糖尿病対策アクションプランー歯科口腔保健対策編ー」の一環として、むし歯が増えやすい年少児(4歳)～年長児(6歳)を対象に、(公社)東京都足立区歯科医師会、各保育施設、認定こども園、幼稚園等が連携・協調しながら、①統一基準の歯科健診、②丁寧な受診勧奨、③集計・分析・フィードバックをセットにした「あだちっ子歯科健診」を実施し、むし歯予防および早期の治療に繋がる取り組みを進めている。

【あだちっ子歯科健診のポイント】

- ① 統一基準(帳票、健診基準等)の歯科健診を実施
- ② 健診後、歯科受診が必要な子どもの保護者に丁寧な受診勧奨を実施
- ③ 歯科健診結果の集計・分析・フィードバック

(2) 対象者

通園の有無に関わらず、年少児(4歳)から年長児(6歳)、全ての幼児

※区内の保育施設、こども園、幼稚園においては、在籍する区外在住者も含めて実施

(3) 実施方法及び今後の目標

① 統一基準の歯科健診

足立区歯科医師会に委託(区立認定こども園のみ嘱託医)し、施設および会員歯科診療所で歯科健診を実施する。足立区歯科医師会の協力のもと、施設内健診、会員診療所での未受診者健診等を行い、受診率向上を目指している。

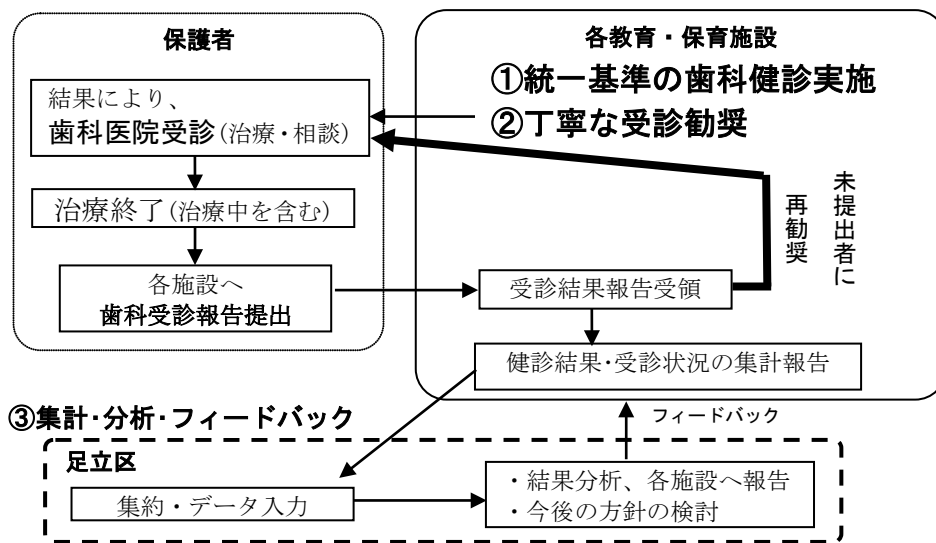
② 受診勧奨

各保育施設・認定こども園・幼稚園のご協力のもと、保護者への丁寧な受診勧奨と受診報告書の確認をすることで、未治療の子どもの数を減らしていく。

③ 結果集計・分析・フィードバックと役割分担

各施設から歯科健診結果報告を受け、区は個人情報の適正な管理のもと保健衛生システムに登録の上、集計・分析を行う。分析結果から、園児や保護者が望ましい生活習慣を獲得できるよう、効果的な「歯・口の健康づくりの取り組み」を検討・実施する。

あだちっ子歯科健診フロー図



【問合せ先】

●あだちっ子歯科健診の実施に関すること

足立区教育委員会子ども家庭部

子ども政策課子ども施策推進担当 03-3880-5266

●あだちっ子歯科健診の結果分析に関すること

足立区衛生部データヘルス推進課

多世代健康データ連携担当 03-3880-5601



区オリジナル・奥歯のはみがきキャラクター「おくばちゃん」